



制度より生活を見よう！ 自費（保険外）サービスの活用

執筆▶ 柳本文貴 NPO 法人グレースケア機構 代表
介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員

自費（介護保険外）サービスや社会資源の活用を国が推奨するなか、自費サービスは富裕層向けとの認識や、介護保険サービスとの組み合わせが難しいという声があります。そこで、長年にわたり自費サービスの運営を続けている柳本文貴さんに、自費サービスを始めた経緯や考え方、実際のサービス内容やケアマネジャーとの連携について語っていただきました。

1. 自費サービスの始まり

時間が短くなる、やれることが限られる、断ることが仕事みたいになっている……。

介護保険が見直しのたびに窮屈になっていき、ホームヘルパーも手足を縛られるように感じるが増えました。もっと自由に利用者本人の暮らしを支え、ヘルパーの方もやりがいをもてる事業を作れないか……。

2007年、介護職の仲間と、指名制ヘルパーなど選べるケアサービス事業を考え、地元のビジネスプランコンテストに参加しました。そこでコミュニティビジネス賞をいただき、翌年NPO法人化して、自費のみの事業所を始めました。

その後、利用される方が増え、保険制度内でも同じ人に来て欲しいという要望から、2010年に「訪問介護」、2011年に障がい福祉の「居宅介護」

「重度訪問介護」の指定も受けました。以後、自費で泊まれる民家デイや、ケア付きシェアハウス、まちの保健室や居場所づくり、ガレージセールなどに活動は広がっています。

現在は、社員32名、非常勤スタッフ140名あまりで、三鷹市・武蔵野市および周辺エリアを中心に、500名以上の方にケアを提供しています。

ちなみに、当NPO法人グレースケア機構（以下、グレースケア）では「保険外」という言い方はしていません。自費のケアは「保険」の外、という考え方自体が、制度を中心とした偏ったもの。本来はその人自身の生活が中心であって、制度は暮らしのごく一部をカバーするものでしかありません。「制度より生活を見よう！」をモットーに、自費を中心として、使えるなら必要に応じて介護保険や障がいの制度を組み合わせよう、と考えています。

2. 自費は金持ちのもので、格差を広げる？

ケアマネジャーのなかには「自費は高い」「お金のある人はいいが格差を広げる」「都市圏でしかできない」と思い、ケアプランをなるべく制度のなかで組み立て、費用負担を抑えることが望ましいと考える方もいます。確かに食事、排泄、掃除、洗濯など基本的なニーズを廉価で助け合う仕組みである介護保険は重要で、多くの高齢者や家族が救われています。ただ、お金が多少かかっても好きに暮らしたい方もいます。自費で選択肢を増やすことは、それぞれの人に応じた生活を作っていくうえでは不可欠。報酬の低さを理由にヘルパーが不足していることを考えると、ある程度所得のある高齢者から、ケアの担い手にお金を回していくことは、社会的な格差の是正になります^{*1}。